

[実践例]

第1学年 国語科「こんなことをしたよ」

単元のねらい 共通に体験した「野菜の世話」を順序よく思い出して書くことができるようにする。  
 本時の位置 前時まで、野菜の世話を思い出し、教材文から詳しく書くための視点を見つけている。  
 本時のねらい 野菜の世話をしたことを順序よく思い出して、「どんなふうにしたか・何をしたか」等をいれて詳しい文章にすることができるようにする。

学習内容・活動	時間	考察(勤労生産学習との関連から)
<p>1 学習のめあてをつかむ</p> <p>おうちのひとによくわかるようにぶんをかきましょう。</p> <p>T 実際に野菜の世話をしている写真を示す。                      T 今まで、野菜の世話はどんなことをしてきましたか。                      C わらをしてあげました。                      C 水やりと草むしりをしました。                      C わらしきとほうたてをしました。                      T 今日は、そのことがおうちの人によく分かるように文を書きましょう。</p>	10分	<p>* 子どもたちは今までに、自分の野菜を決め、苗を植え、支柱立て・わらしき・水やりなどの世話をしながら野菜への言葉かけ・思いやり・気付きが自然に出てきている。そういう野菜の世話をしている写真を示したことは、学習に対する興味・意欲と共に自分のしたことを思い起こさせるのに役立った。</p>  
<p>2 詳しく書くための視点を確認し、野菜の世話をしたことを文章に書く。</p> <p>T どんなふうにかきべいのか。                      C 字をていねいに C 思ったこと                      C 何をしたか C どんなふうにしたか                      C 次にしたこと                      C 「。」「,」をつける。</p> <p>T 先生とお話をして文を作りましょう。                      C 草むしりをしました。                      力を入れても取れないときはスコップでとりました。草を捨てにいきました。                      T おうちの人に野菜の世話をしたことがよく分かるように文を書きましょう。</p> 	25分	<p>* 詳しく書くための視点(何をしたか・どんなふうにか・次に・気持ち)は前時に教材文を使って学習しているが、なかなか子どもたちから出てこなかった。2名の子を例に文の作り方を示したが、したことを羅列した子が数名いた。この時期の子どもたちにとって、この視点は区別しにくく分かりづらかったようだ。</p> <p>* 「そおとどけました。」「のどがかわいているようでした。」「水をいっぱいあげました。」など、野菜に対する思いやりの気持ちを込めて育てているのが、短い言葉・文章の中に、1年生なりの表現で表れていた。</p> <p>* 書き出せずに困っている子には、日ごろの一人一人の様子(忘れずに水やりをしている・実をつけたとき大喜びで報告した・友達の名までやってあげた)をもとに助言し、いっしょに文を作るようにした。全員が活動の喜び・野菜への思いを3文以上の文章で表現することができた。</p>
<p>3 友達の作文のいいところを見つけ、学習のまとめとする。</p> <p>T 作文を発表しましょう。</p> <p>T 友達の作文のいいところを見つけましょう。                      C 思ったことが書いてある。                      C 何をしたかが書いてある。                      C 「。」がついている。 C 字が上手                      C 「水をいっぱいあげました。」と書いてあります。</p>	9分	 <p style="text-align: right;">野菜への思いが表れている作品</p>
<p>4 次の学習内容を確認する。</p> <p>T 次の時間は、みんなで作文を発表して、よいところを見つけましょう。</p>	1分	<p>* 友達が野菜に対してどんな世話をし、どんな思いをこめているのかを聞くことによって、今後の活動に意欲的に取り組むことになると思われる。</p>